

か が はん おん だ い く わ た な べ け も ん じ ょ 加賀藩御大工渡部家文書（一括）

種 別 小松市指定文化財 古文書
指定年月日 平成19年11月3日
所在地 上八里町（個人蔵）

渡部家は、代々加賀藩大工集団のなかで重要な地位を占め、三代藩主前田利常の小松城隠居の際には、三代渡部伊兵衛^{よしちか}珍知が小松城造営に大いにかかわった。その後も代々加賀藩お抱えの御大工^{おん}を務め、金沢城などの作事に携わった。本件は、その渡部家所蔵の文書類で、総数388点の一括資料である。

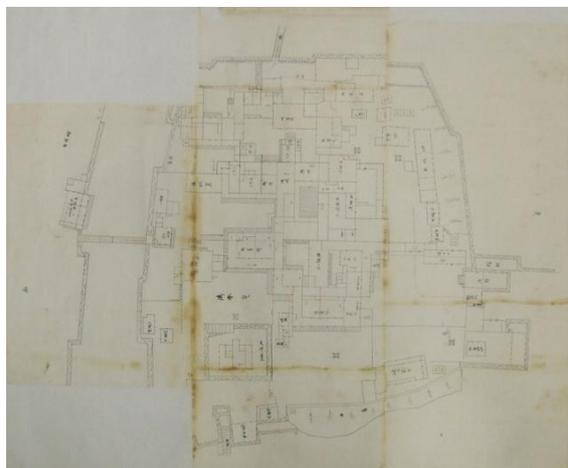
一括資料のなかで、九代渡部祐六郎^{ゆうろくろうともしげ}知重が天保13年（1842）に筆写した「加州金沢御城惣御絵図」^{かしょうかなざわおんじょうそうおんえず}（135×154 cm）は良好な史料であり、測量値も寸単位まで表記され、江戸後期の金沢城の様相を具体的に示している。文政13年（1830）に金沢城代^{じょうだい}の横山隆章^{たかあき}が奉行に作製させた「御城中壺分碁絵図」^{おんじょうちゆういちぶんのこえず}、成巽閣所蔵の「金沢御城之図」^{せいそんかく}（文政8年と推定）とともに、同じ元図を筆写した兄弟図とされ、宮守堀^{みやもりぼり}周辺の記入や測量値の詳しさから、三図中、より元図に近いものと評価される。

小松城に関する絵図としては「小松城御本丸御絵図」^{こまつじょうおんほんまるおんえず}（年不詳。嘉永2年（1845）と推定。79.2×64.5 cm）がある。

金沢城・小松城の絵図は勿論のこと、職歴や生活全般に及ぶ物件（印鑑類や年中行事）類は、御大工としての存在に関する文書類であり、県内でも数少ない御大工のまとまった資料として貴重である。



「加州金沢御城惣御絵図」



「小松城御本丸御絵図」